

今、東京で最高級の邸宅とは？

都心に住む

by **SUUMO**↑

特別付録

スキミング
防止カード

最新トレンドと資産性

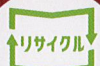
豪邸 マンション

2019 5

¥300
特別価格

港・渋谷の豪邸訪問
プレミアム仕様の捻
新築モデルを見極め

千代田、港、文京…
都心でつかむ！
伸びる教育環境



この本は
リサイクルできます

RECRUIT

掲載されている内容についてのお問い合わせは
SUUMOホットライン ☎0120-305-444

手に入れたのは 自分史上最高の家

都心の豪邸にはどんな空間が広がっているのか。
こだわりの邸宅を手に入れた3組に暮らし心地を聞いた。

CASE 1

大理石と鏡が引き立てる “東京屈指”の眺望

港区在住/Kさんカップル(30代)

東京タワーが眼前にそびえる
メゾネット住戸にひと目ぼれ

天井高6mに及ぶ2フロア吹抜けのリビングを彩るのは、黒と白の大理石と鏡。モダンなその空間に、目の前にそびえ立つ東京タワーが浮かび上がる。手が届きそうなほどの近さだ。

もともと住宅に興味があり、都心のハイクラスマンションを新築・中古問わず数多く内覧してきたというKさん。そのなかで、ひと目ぼれたのが現在の住まいだ。魅了されたのはその眺望。「東京タワーを望む絶景マンション」という意味では、多くのプレミアム住戸がひしめく東京都心のなかでもこの部屋がナンバー1だと感じました」

リビングのパノラマビューを堪能するため、ケルビン・ジョルマーニのラウンドソファを設置。夕暮れ時の美しい眺望が階段の鏡に映り込む。鏡は西尾硝子鏡工業所が設計と施工を手がけた

最上階のメゾネット住戸のリビングは、約36畳の広々とした空間。プライベートルーム3室が設けられ、虎ノ門方面を一望できるルーフバルコニーもある。190㎡超という圧倒的な広さも購入を後押ししたそう。

時間をかけてつくり上げた
大理石と鏡の空間

東京タワーの全景が浮かび上がるその眺望を最大限に愉しむために、Kさんが行ったのは内装のリフォームだ。「窓の外の風景を室内に映し込み、空間の奥行きが感じられるように」との思いから、リビングや上階につながる階段の側面には、一辺の長さが130cmの巨大な鏡を全面張りに。その鏡には窓越しの東京タワーが映り込み、パレールワールドのような幻想的な空間を生み出している。

一方で、壁面は延べ1ヵ月かけて一面大理石張りにリフォーム。「海外の一流ホテルや大理石張りの家の施工事例などを参考にしました。自

分の希望を叶えたかったのはもちろん、将来的に住み替えて売却や賃貸運用に出すときも有利になると考えています」とKさん。もともとリビングの床に敷き詰められていた大理石と調和するように、壁面には白い大理石のドラマティックホワイト、梁には黒い大理石のネロマルキーナを採用してスタイリッシュに仕立てている。

天然石複合板の内装施工を専門とするユアハウスの河部誠氏は言う。「個人宅でこれほど多くの大理石を壁張りするのは初めてのことに。軽量の大理石複合板だから高さ6mを超える大壁に施工できました。Kさんは石にこだわりをおもちだったので、世界中の大理石が集まる中国・アモイまで買い付けに行きました」

Kさんによれば、知人を招いてホームパーティーを開くと、この眺望に誰もが驚き、喜んでくれるという。「夜には、東京タワーの灯りが大理石に反射して一段と美しく輝く。その眺めは、毎日見ても見飽きることはありません」



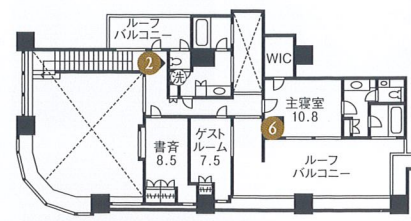
2 上階の踊り場。写真左側は空間を引き締めるグレーの鏡を全面張りにした 3 キッチンを囲うように鏡を張ってシックな空間に。大理石のテーブルは輸入家具店「スーク東京」で購入



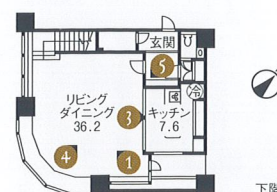
4 鏡張りにした170㎡以上の広さがある階段の壁面にはプロジェクター用の120インチスクリーンを設置。映画やテレビが楽しめる 5 玄関ロビーもツートンの大理石で演出。ホテルのエントランスロビーを思わせる華やかさ



6 約10畳の寝室。リラックスできるようプロンズの鏡を張った。ヘッドボードは佐山製作所でオーダーメイド



上階



下階

DATA
専有面積/192㎡
間取り/3LDK
リフォーム費用/大理石約1200万円、鏡300万円、ヘッドボード70万円
施工/ユアハウス、西尾硝子鏡工業所、佐山製作所

“オートクチュール・リノベーション”で マンションを「豪邸」に

“リノベーション”に新たな波が訪れています。古い物件を再生するのではなく、マンションを新築で購入し、さらに建築家に依頼して自分の理想の住まいにつくり直すというもの。背景には、行き届いた警備体制やコンシェルジュの常駐など、安全かつ快適な環境を求め、一軒家よりマンションに魅力を感じる人の増加傾向が。マンションの域を超える「豪邸」さながらの、贅を尽くしたオートクチュールな家づくりをご紹介します。

撮影／青藤幹朗 取材・文／安藤菜穂子(P.231～242) 小森知佳(P.243～248)



R邸の玄関ホールから続く廊下。大理石の床に埋め込まれたアップライトが非日常的な雰囲気演出している。茶室などに用いられるシャム柚とガラスを組み合わせた観音開きのドアの向こうにリビングが。

美しい大理石が放つ、
一軒家を超える重厚感

東京都目黒

イタリアの有名「ミッケー」のソ
ファに張り、暖色のアラバスター
ジェントを集めた奥行き。深いカ
ーペットを敷いた床より、17万円の
木材と階段照明で、空間がより広く
ドラマチックに。

233

シヨンのポイント

東京都R邸の場合

全体的にシックな色調で統一された2階の玄関ホールから右側は、一転、白い世界が広がる。廊下に続き、奥さまとお嬢さまそれぞれの、女性らしい内装の寝室が、

バスルームはリラックス空間なので、生活感を出したくない」という奥さまのリクエストで、洗濯機横に設けられた衣類乾燥室。半透明ガラスの引き戸で目隠しされている。

**厳選した石材や木材、
フルオーダー収納で
極上空間をつくる**

After

ポイント2
玄関を劇的に
グレードアップする、
複数の大理石づくり

玄間には上りがまちなく、広々としたホールが、床のモザイクはイタリアの「シチス」のもの。その周囲も大理石で囲み、壁にも大理石を用いた。正面は大容量のシューズクローゼットの扉で、マット仕上げのカラーガラスに真鍮の目地を入れたオリジナル。初り上げ天井の側面にも、真鍮のアクセントが施されている。